

令和6年度 努力点 推進計画

名古屋市立牧野小学校

- 1 主題 主体的・対話的で深い学びができる子どもの育成
—「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して—

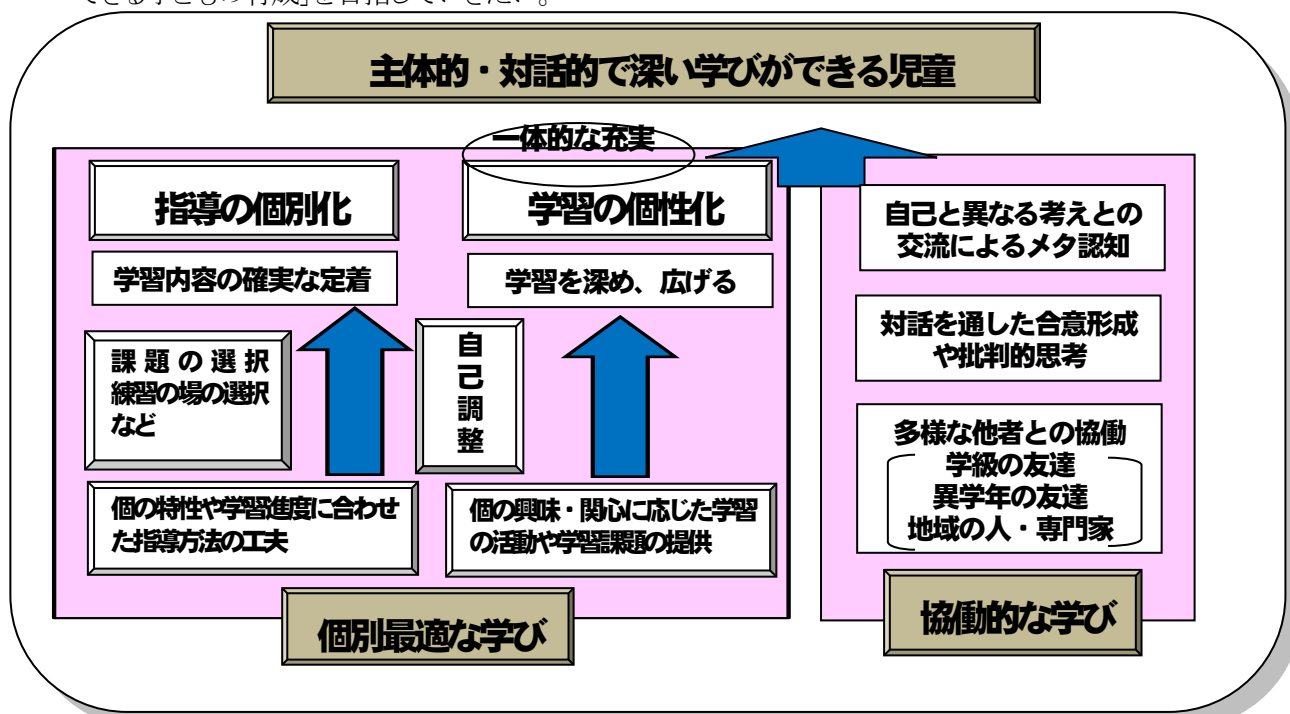
2 主題について

現在の学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」を目指し、子どもが「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」という視点での授業改善が求められている。これを踏まえて本市の努力目標として、ICTを最大限活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が明記されている。

本校は、通常学級に加え、知的・情緒・肢体と特別支援学級が3学級と通級指導教室も2学級あり、子どもの特性も多様であることから、特に一人一人の興味や関心、能力に応じた「個別最適な学び」を意識した授業改善が必要である。昨年度より、主体的・対話的で深い学びができる子どもの育成を目指し、「個別最適な学び」を意識した実践を行っている。子どもの学習進度に合わせ、練習の方法や場を選択させたり、学習の途中で振り返りをさせ、自己調整の時間を設けたりするなど、指導方法を工夫してきた。

しかし、これまでの実践では、児童が課題に対して、必要な学習方法を選択したり、タブレット端末などを有効に活用したりする経験が少なく、継続的に「個別最適な学び」を意識した実践を行うことが必要だと感じた。さらに、他者の考えに共感したり、比較したりすることで、学びを深めていきたい。

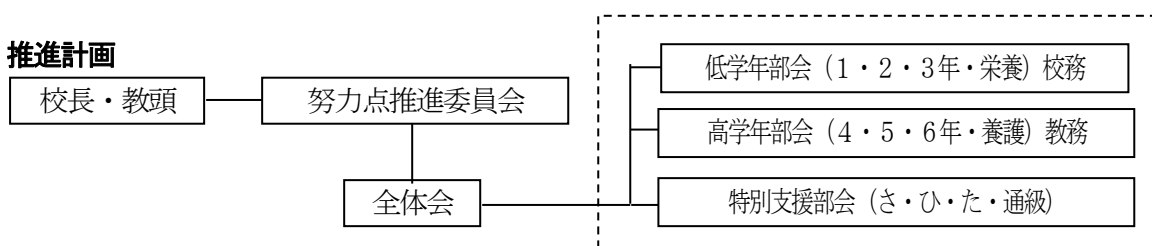
そこで、昨年度取り組んだ、「個別最適な学び」を意識した学習を土台にして、実践を進めることに加えて、多様な他者との「協働的な学び」との一体的な充実を図ることで、「主体的・対話的で深い学びができる子どもの育成」を目指していきたい。



3 重点目標とその進め方

主題に迫るためには、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両方を意識した授業を行っていく。「個別最適な学び」では、教師側が、一定の目標に向かって各々の特性や学[部会]わせて指導方法を工夫したり、子どもに自己調整を図る時間や場を設定したりすることで、学習内容の確実な定着を目指す「指導の個別化」を進めていく。同時に子どもの興味・関心に応じた学習の活動や学習課題の提供をすることで、子ども自身が学習を深め、広げていけるように「学習の個性化」を進めていく。また、「協働的な学び」では、個人の学びを他者と交流することで、メタ認知を促したり、合意形成や批判的思考といったより考えを深めたりすることができるように研究を進めることで、「主体的・対話的で深い学びができる子どもの育成」を目指していく。

4 推進計画



- ・ 努力点全体会では、共通理解すべき授業実践の進め方の確認や意見交換などを行う。
- ・ 部会では、低・高学年部会の2つに分かれ、授業実践（一人一実践）の事前検討会（P）→授業研究（D）→事後検討会（C）の事後評価を行い、授業改善（A）へとつなげていく。
- ・ 全体授業は、低・高学年部会合同で事前検討、参観、事後検討を行い、全員で授業を考える。
- ・ 参観は、部会内で行うが、部会外でも参観しやすいように、「検証する学習過程」を伝える。
- ・ 事後検討会に向け、部会ごとに役割分担をし、検証しやすいように資料を用意しておく。
(例) ①発問・手だて ②子どもの変容（抽出子ども） ③記録写真 ④計時

| | 会議名 | 実施日 | 内容 |
|-------------|---------|-----|---|
| 1 学 期 | 全体会① | | ・年間推進計画全体提案 |
| | 努力点部会① | | ・育てたい子ども像・授業実践の計画 |
| | 授業研究 前期 | | ・全体授業①の事前・事後検討を行う。 ・低・高学年部会で事前・事後検討会を行う。 |
| 2 学 期 | 努力点部会② | | ・進捗状況の報告・意見交流 |
| | 授業研究 後期 | | ・全体授業②の事前・事後検討を行う。 ・低・高学年部会で事前・事後検討会を行う。 |
| | 全体会② | | ・口頭による中間報告 ・まとめについて |
| 3 学 期 | 努力点部会③ | | ・研究集録原稿の検討 |
| | 全体会③ | | ・最終報告 |
| | 推進委員会 | | ・次年度の計画 |

※ 取り組みを保護者や地域に知らせるため、保護者の授業参観においては、努力点に関する授業を行う。また、授業実践の内容やその成果については、学年だよりや学級懇談会でも報告する。